

取_レ 塩_ヲ 於_レ 我_ガ 国_ニ 頼_{ライ} 山_{サン} 陽_{ヤウ}

信_シ 玄_{ゲン} 国_{クニ} 不_ズ 浜_{ヒマ} 海_ニ 仰_グ 塩_ヲ 於_レ 東_{トウ} 海_ニ 今_{イマ} 川_{ガハ} 氏_{ウヂ} 真_{マコト} 与_ト

北_{ホウ} 条_{テウ} 氏_{ウヂ} 康_{ヤサ} 謀_{ハカリ} 陰_{ヒモカニ} 閉_ツ 其_{ソノ} 塩_ヲ 甲_カ 斐_ヒ 大_{イニ} 困_{クムシム} 謙_{ケン} 信_{シン} 聞_キ 之_{コレヲ}

寄_{セテ} 書_ヲ 信_{シン} 玄_ニ 日_{イハク} 聞_ク 氏_ニ 康_ニ 氏_ニ 真_ニ 困_{ルニ} 君_ヲ 以_{モツテ} 塩_ヲ 不_ズ 勇_{ナラ} 不_レ

義_{ナラ} 我_ニ 与_レ 公_ニ 争_{ヘドモ} 所_ハ 争_フ 在_{リテ} 弓_{キウ} 箭_{センニ} 不_レ 在_ラ 米_ニ 塩_ニ 請_{コフ} 自_{ヨリ} 今_ニ

以_ハ 往_ハ 取_レ 塩_ヲ 於_レ 我_ガ 国_ニ 多_ク 寡_ハ 唯_{タダ} 命_{ノママ} 乃_{すなはチ} 命_ニ 賈_コ 人_{ジンニ} 平_{ラクニシテ} 価_ヲ

給_{セシム} 之_ニ

天_{テン} 正_{シヤウ} 元_ニ 年_ニ 四_シ 月_{ツキ} 信_{シン} 玄_ニ 卒_{シユツス} 北_ニ 条_ニ 氏_ニ 政_{マシ} 馳_{ハセテ} 使_{ヒラ} 告_グ

之_ヲ 謙_ニ 信_ニ 謙_ニ 信_ニ 方_{マシニ} 食_ス 舍_{オキテ} 箸_{ハシヲ} 而_{シテ} 歎_{タムシテ} 日_{ハク} 失_{ヘリ} 吾_{ワガ} 好_{コト} 敵_ニ 手_ヲ

矣_ニ 世_ニ 復_{マタ} 有_{ラン} 此_{コト} 英_ニ 雄_ニ 男_ニ 子_ニ 乎_{ヤト} 因_{ヨリテ} 濟_{サン} 然_{ゼントシテ} 流_ス 涕_{ナミダヲ} 者_{コト} 久_{シウス}

(日本外史)

【書き下し文】

信玄の国海に浜せず。塩を東海に仰ぐ。今川氏真 北条氏康と謀り、陰かに其の塩を閉づ。甲斐大いに困しむ。謙信之を聞き、書を信玄に寄せて曰はく、「氏康・氏真 君を困しむるに塩を以てすと聞く。勇ならず義ならず。我公と争へども、争ふ所は弓箭に在りて米塩に在らず。請ふ、今より以往は塩を我が国に取れ。多寡は唯だ命のままなり」と。乃ち賈人に命じて価を平らかにして之に給せしむ。

天正元年四月、信玄卒す。北条氏政、使ひを馳せて之を謙信に告ぐ。謙信方に食す。箸を舍きて歎じて曰はく、「吾が好敵手を失へり。世に復た此の英雄男子有らんや」と。因りて漣然として涙を流すこと之を久しうす。

【口語訳】

武田信玄の治める甲斐国は海に臨んでいない。(そのため、)塩の供給を東海道諸国に頼っていた。今川氏真は北条氏康と相談して、内々に甲斐国へと送る塩を絶った。(すると、)甲斐国ではたいそう苦しんだ。上杉謙信はこの話を聞き、手紙を信玄に送って言うことには、「氏康と氏真は、塩の供給を絶つことで、あなたを苦しめていると聞きました。あるべき勇敢さに欠け、守るべき道義に反しています。わたしもあなたと敵対していますが、その方法は武力によるべきであって、米や塩によるべきではありません。今より後は、どうぞ塩をわたしの国からお取りなさい。塩の分量は仰せのままです。」と。そこで(謙信は)商人に言いつけて、値段を公正にして(塩を)信玄に供与させた。

天正元年四月、信玄は亡くなった。北条氏政は使者を走らせて訃報を謙信に知らせた。謙信はちやうど食事をしていた。箸を置き、ため息をついて言うことには、「わたしの敵とするに足る相手を失ってしまった。世の中にこれほど優れた男子がふたたび現れるだろうか(いや現れない)。」と。そうして、はらはらと涙を流すことが長く続いた。